

投稿

清明・定家のゆかりの地を歩いて早や7年

作花一志（京都情報大学院大学）

京都千年の歴史の中で後世に貢献した天文家を探すなら安倍清明と藤原定家を挙げたいと思います。「なんで陰陽師と歌詠みを？」と不思議に思われる方は私たちが実施している「京都千年天文学街道」[1]にご参加ください。

にかけて見事に咲き乱れます。

清明神社



図1 清明神社社殿

所在地は上京区清明町806番地1と言っても京都では無効ですが、堀川今出川下がると言えばすぐにわかります。清明を祀る神社で創建は1007年、そこは清明宅の跡と言われていますが、これは不確かです。至る所に見られる☆印は五芒星（ごぼうせい）また清明桔梗、清明紋、セーマンなどとも言われます。陰陽五行説では、世界の構成要素は木、火、土、金、水の五つで、それらの循環によって色々な変化を説明しますが、清明紋はこの原理を表現したものとされています。京都の神社はほとんど拝殿が南向きですが、この神社では東向きで、御所（大内裏）の北東角、いわゆる鬼門に位置しています。ちなみに平安京の北境界は一条通りでここは洛外です[2]。

境内には千本を越す桔梗が群生し夏から秋



図2 桔梗

また多数の絵馬が奉納されています。SEIMEIを演じてオリンピック金メダルを取った羽生結弦選手をはじめスケーターの絵馬が目立ちます。



図3 絵馬



図4 清明井

晴明神社の近くには「一方通行」で有名な一条戻橋があります。

晴明とともに藤原道長に仕えた源頼光や500年後には加藤清正、黒田如水、千利休もこの付近に住んでいました。



図5 石碑

晴明旧宅

大鏡によると寛和二年(986年)、晴明の邸宅は土御門通り(今の上長者町通り)に面していたこととなり、現在そこは京都ブライトンホテルの駐車場になります。それを示す石碑などは建っていませんがグーグルマップには記入してあります。花山帝が深夜、御所を抜け出し出家のために山科の元慶寺に向かう途中、晴明の邸の前を通りました。その時晴明は「帝おりさせ給ふと見ゆる天変ありつるが、すでになりにけりと見ゆるかな」という有名な言葉を吐くのです。花山帝退位事件の後、晴明は昇進し加持祈祷のオファーも増え、大陰陽師となっていきます。晩年裕福になって現在の晴明神社の地に別邸を持ったのかもしれないですね。

陰陽寮跡

二条城の北東、丸太町通と美福通交差点北東のマンション入口に、「平安京中務省東面築地所跡」の小さな金属板が埋め込まれています。ここが晴明の勤務先で夜は天文観測をしたり、昼は天変の解説のため古記録を調べたりしていました。天文の部署は20人足らずでこのような業務をこなしていました。彼の天文業績としてはわが国最初の皆既日食(975年8月10日)の記録、ハレー彗星出現の記録(989年8月)が挙げられます。

真如堂

正式には真正極楽寺といい京都大学の東にあり、もみじの名所として有名です。真如堂では、晴明紋の入ったお札も配られていて、そのお札の由緒書には、次のような話が書かれています。

晴明は蘆屋道満との術比べに負けて死んで地獄に落ちてしまいます。ところが不動明王が閻魔大王に掛け合ってくれたおかげでこの世に戻ることができたのです。閻魔大王、不動明王、晴明が描かれた図は有名ですが7月25日だけ公開されています。



図6 真如堂

晴明塚

晴明の墓所(のひとつ)で嵯峨嵐山駅の近くですが目立たない所です。左隣は長慶天皇陵で後はなんとか稲荷です。この一帯は角倉了以関連の史跡が多く晴明に関するものは他にありません。

晴明は初め鴨川の中州にあった法城寺に葬られましたが川の氾濫で寺も墓も流されたそうです。その後、嵯峨の地に移り現在の地に収まったのは最近です。なお晴明の墓所は兵庫県佐用町、愛知県蟹江町など全国あちこちにあります。



図7 嵯峨晴明塚

なおこの石碑が立っている横には300年の歴史を持つ老舗の墨店があります。石碑よりも古そうです。

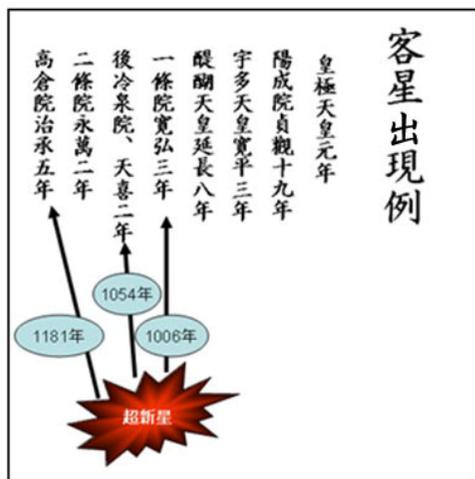


図9 明月記部分

定家の京極邸跡

京都市役所の西、寺町通を北上していくと「此附近 藤原定家京極邸址」の石標が立っています。気の毒にも工事金網に針金で支えられていました。藤原定家はここ左京二条四坊十三町に住んでいたと言われています。彼はこの邸で明月記を執筆し、また歌会を開いたのでしょうか。



図8 藤原定家邸址

『明月記』には3つの超新星を含む客星出現だけでなく、日月食、流星、彗星さらにオーロラの出現記録もあります。彼は自然現象にも深い関心を寄せ、文理両道の達人だったと思われます[2][3]。1198年2月8日の日食は九州では金環食、京都では部分食とはいえ9割も欠けたはずです。食の最大は7:11、高度はわずか4°だったので実際に見えたのは復円に向かう太陽の姿だったでしょう。

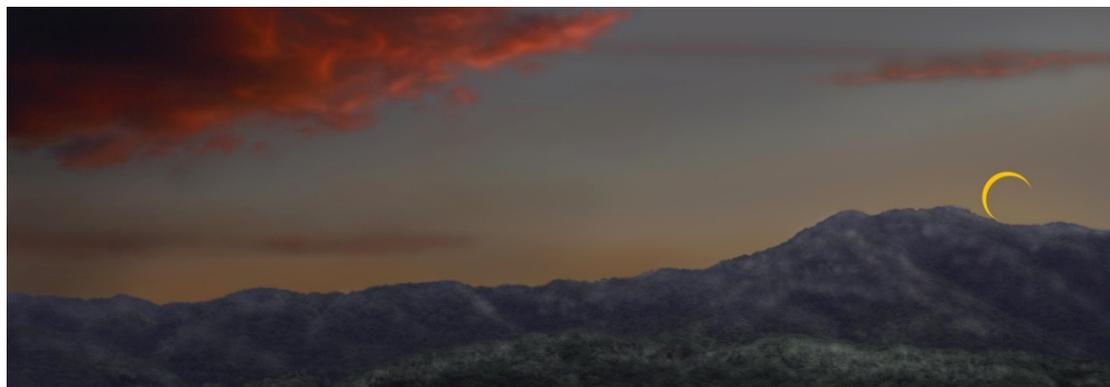


図10 1198年2月8日の日食（平尾圭郷氏提供）

定家に移り住んだ小倉山荘の場所についてはいくつか候補地があり特定されていません。また小倉百人一首を選定したと言われる時雨亭も嵯峨に3か所候補地があります。彼は歿後嵯峨に葬られたようですが、今は相国寺の中で足利義政、伊藤若冲と並んで眠っています。



図 11 冷泉家（後藤正明氏提供）

定家の孫である冷泉為相（ためすけ）から始まる冷泉家は、歌道の宗匠家の内の一つで冷泉流歌道を伝承しています。冷泉家は、烏丸今出川東入ルにあり周り同志社大学となっています。彼が選定した百人一首には「月」を含む歌は11首ありますが、「星」を含む歌は皆無です。しかし星を愛でていた彼はこんな歌を詠んでいます。

そよくれぬ榎の木の葉に風おちて
星いづる空の薄雲のかけ
風のうへに星のひかりは冴えながら
わざともふらぬ霰をぞ聞く

千年の都、京都は文化遺産の宝庫であり、天文学の分野においても、貴重な記録や史跡がたくさんあります。NPO 花山星空ネットワークでは、2011年よりこれらの史跡を巡るコースを「京都千年天文学街道」と名付け、解説付きのまち歩きツアーを実施しています。7年経過した現在6コースを設けていて歩行時間はどれも約2.5時間です [1][4]。

信長と天変コース（10/7）
平安京コース（10/14）
明月記コース（11/18）
神楽岡コース（12/9）
暦合戦コース（12/16）
真如堂虫弘会特別コース（7月末）
花山天文台コース（ただ今休業中）

星々に親しみ、京都をより理解し、そして健康を保つためにもご参加ください。お待ちしております。

参考文献

- [1] <http://www.tenmon.org/>
- [2] 作花『天文教育』Vol.25, No.1, p27, 2013 & No.2, p15, 2013
- [3] 作花『明月記と最新宇宙像』p35, 2014 京都大学総合博物館
- [4] 青木『天文教育』Vol.30, No.4, p.26, 2018



作花 一志